

「2017年タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール参加報告書」

京都大学文学部社会学専修3回生 許 蔚欣

今回参加させていただいたタイ・チュラーロンコーン大学サマースクールはプログラムの内容が盛りだくさんで、タイ語の授業のみならず、学外での見学や文化体験、そして当地の大学生との交流もあり、とても充実した2週間を過ごしました。

タイ語の授業は我々京大生だけの少人数クラスのため、授業中にタイ語を实际発音し練習する機会がたくさんありました。タイ語の先生は毎回変わり、多様な授業スタイルが体験でき、とても役に立つ内容でした。そして、先生方が発音を直してくれたり、私たちの知りたいことを懇切丁寧に説明してくれたりし、大変勉強になりました。また、習ったことが応用できるようにゲームやペアワークまで用意してくれました。本当に先生方に感謝しています。一方、私は今までいくつかの言語に触れてきましたが、文字を習わずに外国語の勉強を進めるのは初めてでした。タイ文字の難易度が高いこともあり、文字を習得しないまま、発音記号をつかってタイ語を勉強しました。これによって、少し話せるようにはなりましたが、文字が読めないため、例えば食堂でメニューが読めず、注文に四苦八苦するという特別な経験をしました。

タイ語の授業の他に、いろいろな見学に参加してきました。まずアユタヤとお寺を見学しました。チュラーロンコーン大学の先生と歴史専門の学生が同行してくれて、仏教やタイの歴史に全く詳しくない私にもわかりやすい解説をしてくれました。そして私たちの要望に応じて象乗りの体験もスケジュールに入れてくれました。また、タイ料理教室もとてもおもしろく、ソムタムというパパイヤサラダの作り方を教えていただきました。タイ人は外食が多くてあまり家で料理しないようですが、ソムタムだけにはこだわっているとのことで、ソムタム専用の鉢は必ず家に置いてあるそうです。さらに、アジアティークでタイ舞踊とニューハーフショーを鑑賞することができ、本当に充実した文化体験でした。

この2週間、サマースクールでチュラ大生との交流もたくさんできました。特に、日本で知り合ったチュラ大生と共同発表を通じて仲良くなることができ、色々なところに連れて行ってもらい、共にに楽しい2週間を過ごしました。また、共同発表の準備や日本語副専攻の学生と話すことによって、交流や文化交換を達成したと思います。タイに詳しくなかった私は、チュラ大生と話すことによってタイという国に対する認識を一層深めることができました。タイ人の国王に対する愛情と尊敬や仏教の影響、そして個人的に興味のある社会学的なタイ事情についても伺い知ることができました。

個人的には、セクシュアリティについて関心を持っていたということもあり、現地に行ってタイにおけるセクシュアリティの規範を体感してきました。ニューハーフショーの経験だけではなく、大学の中でもお化粧をする男の子もいれば、女子の制服を着る男の子もいて、とても珍しい環境の中でワクワクしている自分がいました。残念ながらこれらの方々と直接お話しすることはできませんでしたが、他のチュラ大生によると、彼らは一般人のように受け入れられているようです。ただ、タイにおけるセクシュアリティの規範は厳しそうに見えませんが、ニューハーフの方はまだ公務員といった職業に就くことを認められていないということでした。

この濃密な2週間の中で、多くの学習と体験の機会、そして新たな出会いもあり、とても充実していたと感じています。また、様々な機会を通して自分の視野が広がったとも思います。